

1584

艦政本部

海軍局

海軍省

海軍省

二月十四日

和二年二月十一日

總務部

第一課

海軍

第五部

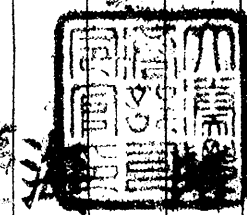
第四部

第一課

右提出ス  
(別紙添)

山田

一 驅逐艦峰風堅礁事件報告



海軍大臣殿

和二年二月十一日

二月十一日進達

二月廿八日

# 驅逐艦峯風坐礁事件報告

## 一 坐礁前狀況

驅逐艦峯風御大喪儀々礼艦トシ昭和二年二月六日午前九時  
 太濤奔小樽ニ向ケ回航セリ當日低氣壓來襲ノ警報アリテ朝來吹  
 雪ヲ伴フ強風連吹シ殆ニ咫尺ヲ辨セズ推定速カト測深儀ニヨリ航行  
 ヲ續ケ津輕海峽ヲ出テ午後二時頃低氣壓中心ヲ通過ス午後四時半  
 ニ至リ氣壓上昇ニ伴ヒ稍吹雪霽ヒ辛ウシテ午後四時五十分位置小  
 島灯台北三十九度東十二哩半ナルコトヲ確定シ得タリ爾後豫定鐵路  
 (別紙鐵路豫定表)ニ入ル為メ鐵路北十二度西ニ進ミ午後六時三十分  
 豫定鐵路北八度西ニ変鍼ス此ノ頃ヨリ再ヒ吹雪來襲シ視界狭小  
 トナリシヲ以テ稻穂岬灯台ニ近接シ之ヲ確認ス目的ヲ以テ灯光視  
 認距離ヲ約二哩ト豫想シ北東ノ風壓ヨリ約二哩壓流セラルルモノ

ト豫期シ午後七時三十分北十度西ニ変鍼ス此頃吹雪稍濃密  
 ヲ加ヘ視界約五百米乃至千米ニシテ(時々二百米ヲ出テサルコトアリ)  
 午後八時頃奥尻海峡ニ近接セルモノト推定シ測深班ヲ配員シ連  
 續測深ヲ始メタルモ水深大ニシテ測深スラ得ヌ又一方霧中航行規程  
 ノ汽笛ヲ鳴ラシ山彦ニシテ陸岸ニ近接ニ注意シテ航行セシモ風雪激  
 シク何等反響ヲ辨セス專ラ見張ヲ嚴ニ密閉排氣ヲ止メ艦長  
 航海長(當時當直將校)掌水雷長(當時副直將校)艦橋ニアリテ  
 稻穂灯光及陸岸ノ奔見ニ努ム午後八時五十七分左舷艦首約四百  
 二灯光一個ヲ奔見シ引續キ數個ノ灯光ヲ認シト同時左舷ノ艦首  
 ニ互リ屹立セル陸岸アルヲ奔見シ直ニ面舵ニ転舵半速續イテ  
 停止錨用意同時後進全速ヲ令シ極力回避ニ努メタルモ午後八  
 時五十九分暗岩(距岸約二百米)ニ擱坐セルヲ感シ船体及推進器ノ  
 損傷ヲ顧慮シ機械ヲ停止坐礁當時矢候北東ノ風風速約十米

吹雪濃密ニシテ最大視認距離燈光ニ對シ約四百米陸岸ニ對  
シ約三百米海上「ウネリ」アリ

### 二坐礁ノ狀況

午後八時五十七分左舷前方ニ當リ陸岸奔見ト同時ニ面舵ニ轉  
舵半速續イテ停止前方ニ暗礁奔見ト見張員ノ報告ト同時ニ  
後進原速ヲ令ス此ノ時艦底ニ第一回ノ衝擊ヲ感シタルヲ以テ機械  
ヲ停止ス間モナク第二回ノ衝擊ヲ感シ惰力停止ス附近水深並  
ニ岩礁ノ狀況別紙ノ通り

### 三坐礁後ノ處置

午後九時一分總員ヲ防水配置ニ付ケ各部ノ損傷及浸水狀  
態ヲ調査セシムタルモ二缶室ニ「フレイム」彎曲セルヲ奔見<sup>ニシテ</sup>外何  
等浸水ノ箇所ナク「ウネリ」ノ来タル毎ニ動搖ヲ感スルノ程度ナ  
ルヲ以テ午後九時六分後進全速ヲ令シ離礁ヲ試ミタルトモ成

功セス是ヨリ先キ探照灯ヲ莫シ附近ノ海面及陸岸ヲ照射艦  
 位並ニ岩礁ノ位置ヲ探查シ且ツ艦周圍ノ水深底質ヲ調査セリ更  
 ニ此ノ時偶々来援セシ漁夫ヨリ附近岩礁ノ位置及底質軟岩ナルヲ確  
 カメタル結果艦尾ノ水深稍大ニシテ右艦尾方向ニ後退可能ナ  
 ルヲ知り得タリ一方生確後ハ右舷艦首方向ヨリウネリ来タリ飛  
 沫上甲板ニ打テ揚ケ船体動搖ノ都度艦底ニ衝擊ヲ感スルヲ以テ  
 此ノ終放置セバ船体切断ノ虞アリ寧ロ一部ノ破損浸水ヲ豫期  
 スルモ萬難ヲ排シ離礁セシムルヲ有利ト思考シ機関長ニ命シ充分  
 汽力ヲ準備セシメ午後九時四十分兩舷機後進全速面舵一杯  
 ヲ令ス間モナク艦ノ後退シ始ムルヲ認メ左舷艦尾方面ノ暗岩ヲ  
 顧慮シ一旦兩舷機ヲ停止シ關係位置ヲ確カメ更ニ左舷機後  
 進原速面舵一杯ヲ令シ全ク安全ナル位置ニ至リタル後更ニ艦  
 底各部ヲ檢スコノ時前部糧食庫ニ浸水量約四尺アルヲ発見

直ニ排水ニ努メタルモ減水弁ルヲ以テ任務遂行稍々困難ナリト認メ  
爾後ノ行動ニ對シ大湊要港部司令官ノ指令ヲ仰キ函館ニ回  
航セリ

午後九時大湊電信所ニ對シ無線電信ヲ以テ遭難ノ旨ヲ報シ直  
チニ了解又午後九時ニ分海上衝突豫防法規定ノ赤灯ニ個ヲ連  
掲ス

四 損害ノ狀況

函館入港後精査シタル結果損害狀況左ノ如シ

(一) 船体

(イ) 艦首「トリミニグタシク」内八番九番「ビーム」間「キール」ノ右艦底  
ニ約〇六平方呎深サ約一呎外飯凹陥シ「リベット」ノ緩ミヨリ  
海水浸潤ス(別圖第一)

(ロ) 前部糧食庫(濕物)内十四番「ビーム」附近「キール」外飯長サ

事

置

約二呎深サ約七吋凹陥シ「リベット」緩ミヨリ少許浸水

(別圖第二)

(ハ) 第一缶室前部隔壁(五十一番ビーム)ヨリ第三缶室後部隔壁

(百一十番ビーム)ニ至ル間ノ艦底ヲ「キール」ヨリ左舷側「フレーム」第一

區劃於テ約三吋乃至二吋彎曲セル「フレーム」四十六本アリ其中

「フレーム」彎曲ノタメ第一第二缶室隔壁第六十四番「フレーム」取付

鉄五本及第二第三缶室隔壁第八十八番「フレーム」取付鉄一本

折損ス第二缶室第七十八番「フレーム」及第三缶室第九十六九

十八番「フレーム」取付鉄各一個弛緩シ海水浸潤ハ尚左舷側

「フレーム」第二區劃於テ約一吋彎曲セルモノ七本アリ(別圖第二)

(ニ) 第三缶室機械室間隔壁(百一十番ビーム)ヨリ機械室後部隔

壁(百三十一番ビーム)ニ至ル間ノ艦底ヲ「キール」ヨリ左舷側「フレーム」

第一區劃於テ約三吋乃至二吋彎曲セル「フレーム」十二本ナリ

豫備水タンク内「フリューム」ノ弯曲稍甚シク五吋乃至四吋達  
 スルモノ六本其他何レモ輕微ナリ油溜タンク内「フリューム」モ同  
 様弯曲シ居ルモノト認メラル豫備水タンク内ニ海水浸潤  
 ノタメ豫備水ハ塩分増加ノ氣味アリ(別圖第三)

## (二) 機 関

(イ) 各缶爐内底部煉瓦ニ号缶三條ニ号缶九條三号缶三條  
 四号缶十條何レモ長サ三呎乃至缶爐内全長ニ亘リテ亀  
 裂ヲ生シニ三号缶ニ缶取付台各約三吋外方ニ擴カリ  
 居レリ

(ロ) 潜水作業ヲ行ヒ検査セルニ左舷推進器及軸系ニ異狀ヲ認  
 メス右舷推進器ハ翼全部尖端ノ圓周約四呎ニ亘リ幅五  
 吋少シク後方ニ屈曲シ三個ノ翼中二個ハ該部ニ約二吋ノ欠  
 損各二個所アリ左舷張出承艀部保護亜鉛取付螺



海 軍

釘三本折損シ居リ

(三) 兵器

損傷亡失ナシ

(四) 搭載品

左記前部糧食庫浸水為メ消<sup>耗</sup>米<sup>ニ</sup>タル外損害ナシ

米 七十貫

麥 三十貫

砂糖(天光) 十八貫

砂糖(三本行) 十貫

塩 十六貫

終

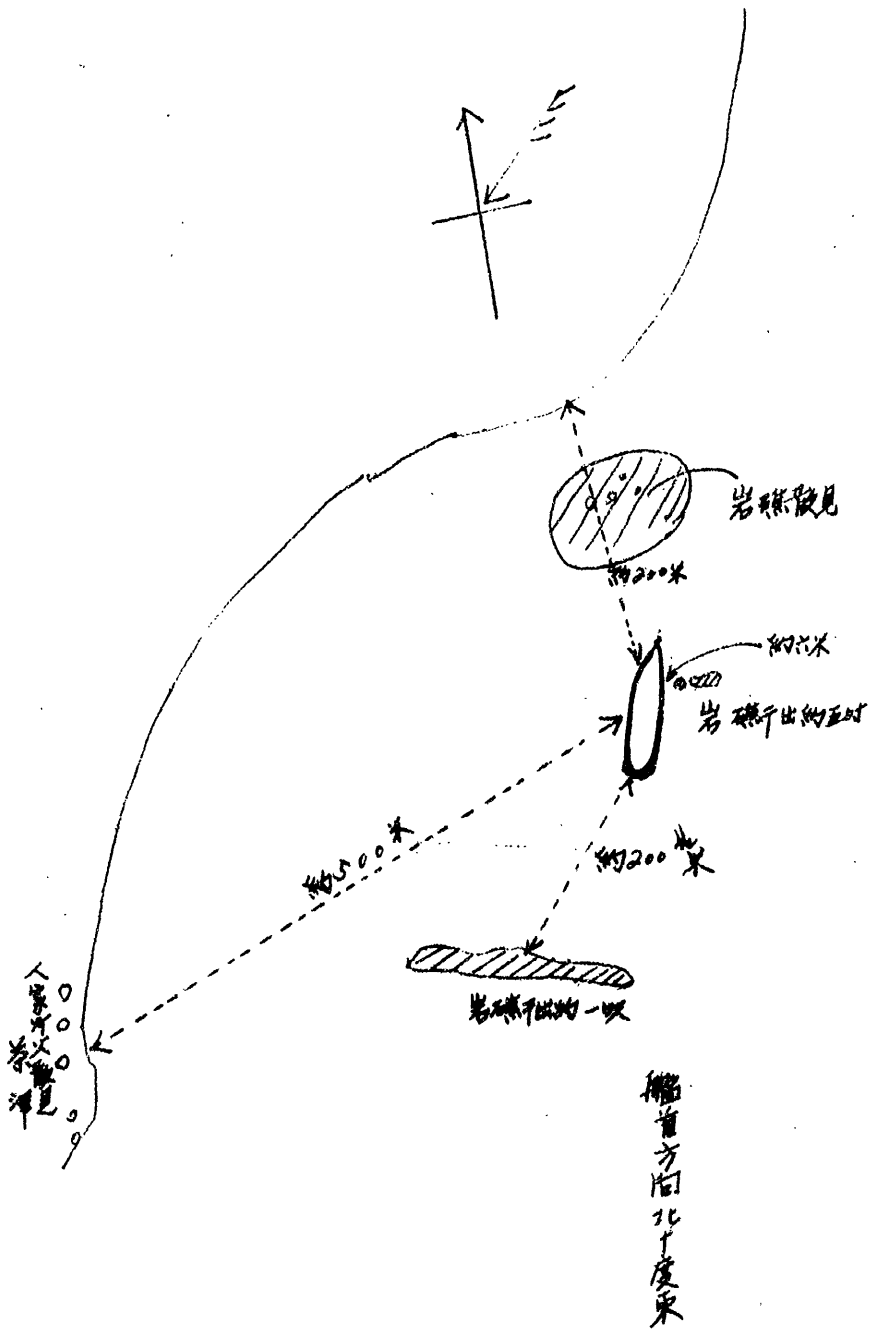
鐵路豫定表拔萃

目 標 名	目 標 方 位	目 標 距 離	鐵 路
明神埼 Lt	S 21 W	4.7'	N 67 W
辨天島 Lt	N 84 E	5.1'	N 8 W
稻 穂 Lt	S 55 W	5.7'	N 10 E

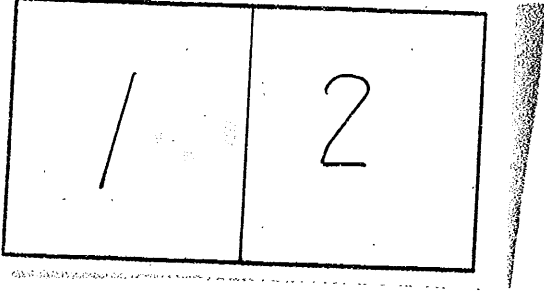

1593

海 軍

岩礁位置畧圖



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>12 年 6 月 1 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 三 浦 悟 </p>	

# 水深底質圖

1595

砂

三・五尋

岩 一・五尋  
 岩 二・五尋  
 岩 二・五尋  
 岩 二・五尋  
 岩 二・五尋

砂

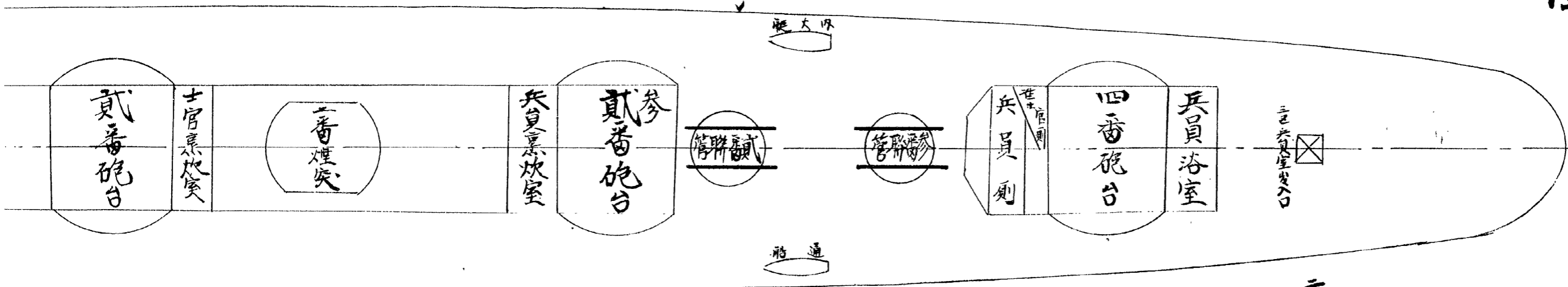
二・五尋

岩

二・五尋

砂

二・五尋



二・五尋

砂

艇

二・五尋

砂

二・五尋

貝殼

一・五尋

貝殼

二・五尋

貝殼

一・五尋

貝殼

二・五尋

岩

艦首

板甲前

壹番砲臺

信聯砲

艦橋

一番煙突

工場

貳番砲台

士官集煙突

三番煙突

砂

三・五尋

砂

三・五尋

砂

三・五尋

二・五尋 岩

三・五尋 岩

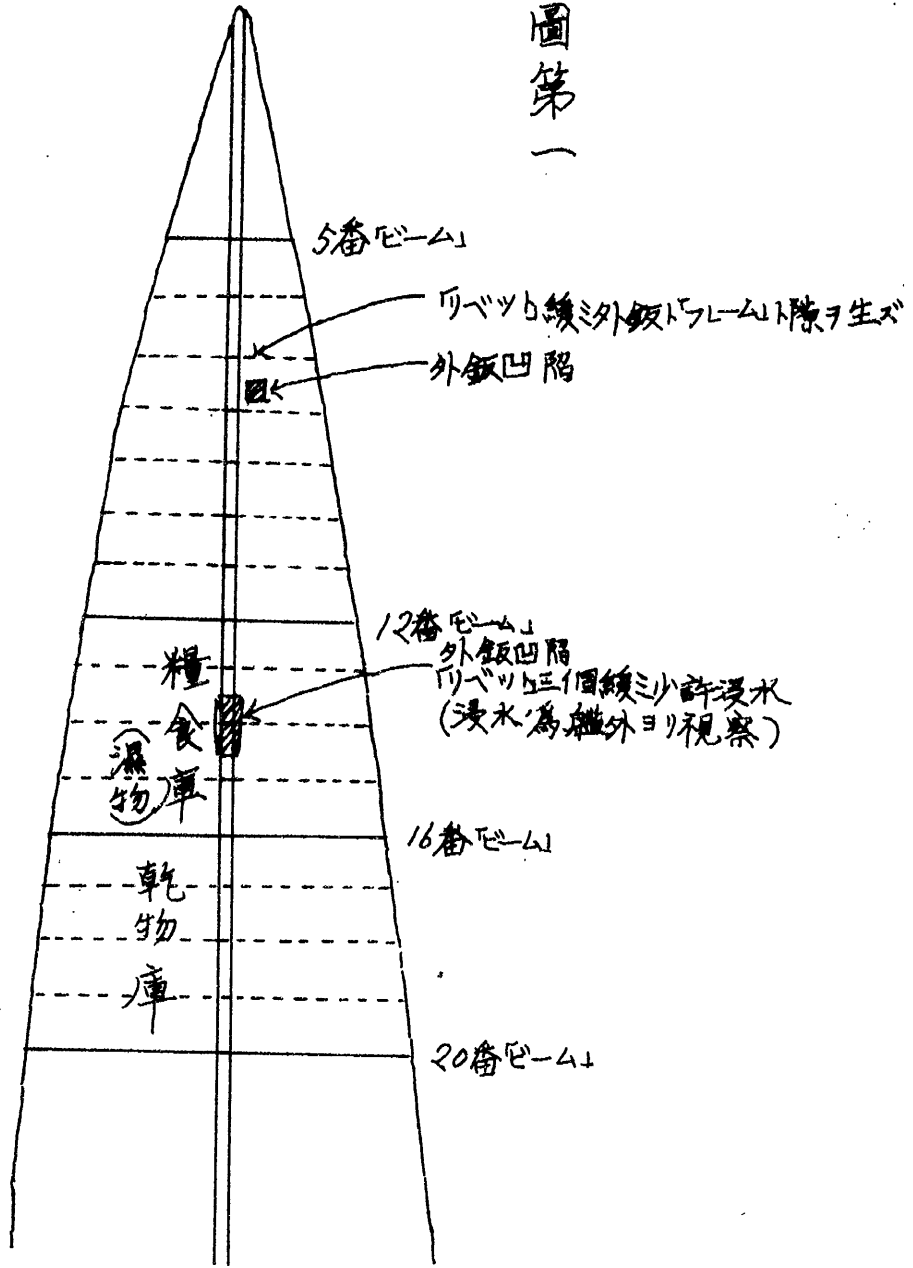
一・五尋 貝殼

一・五尋 岩

二・五尋 砂

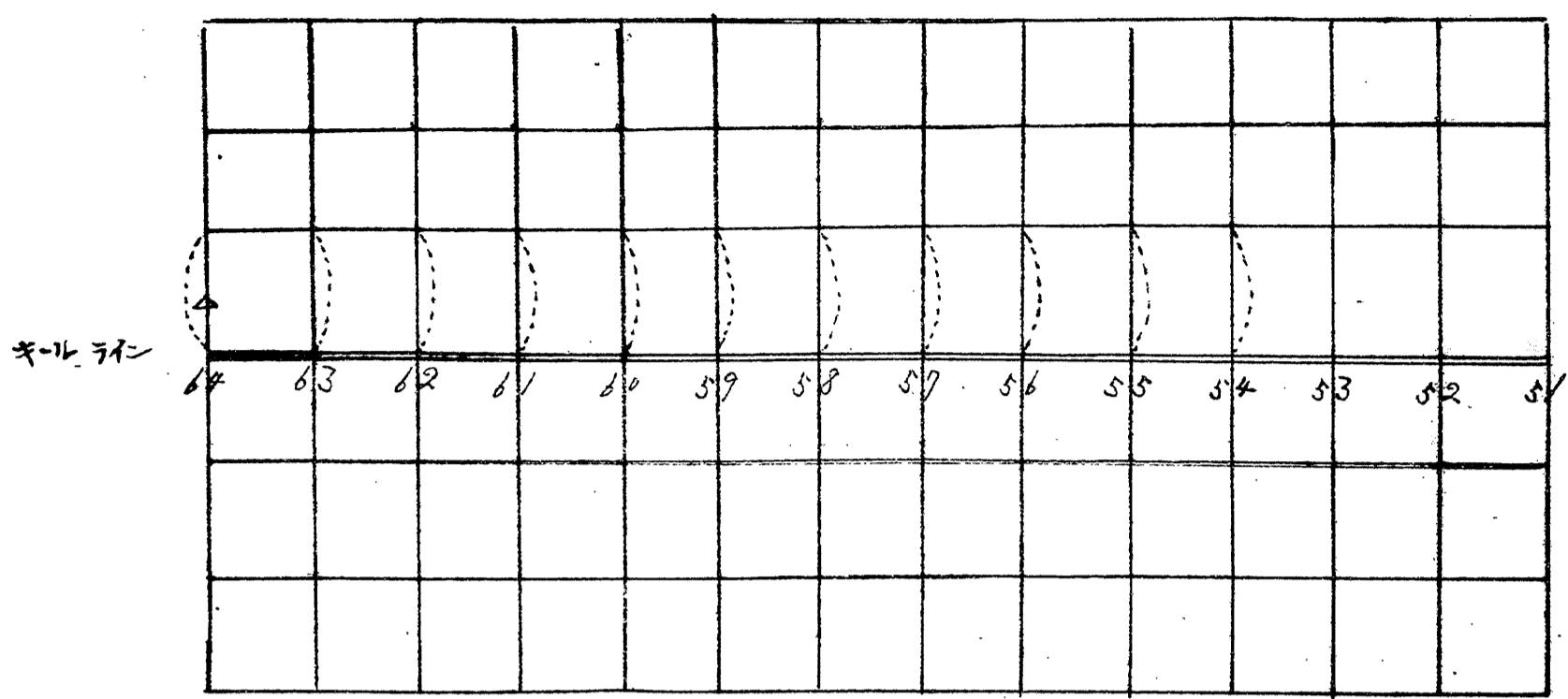
1597

別圖第一

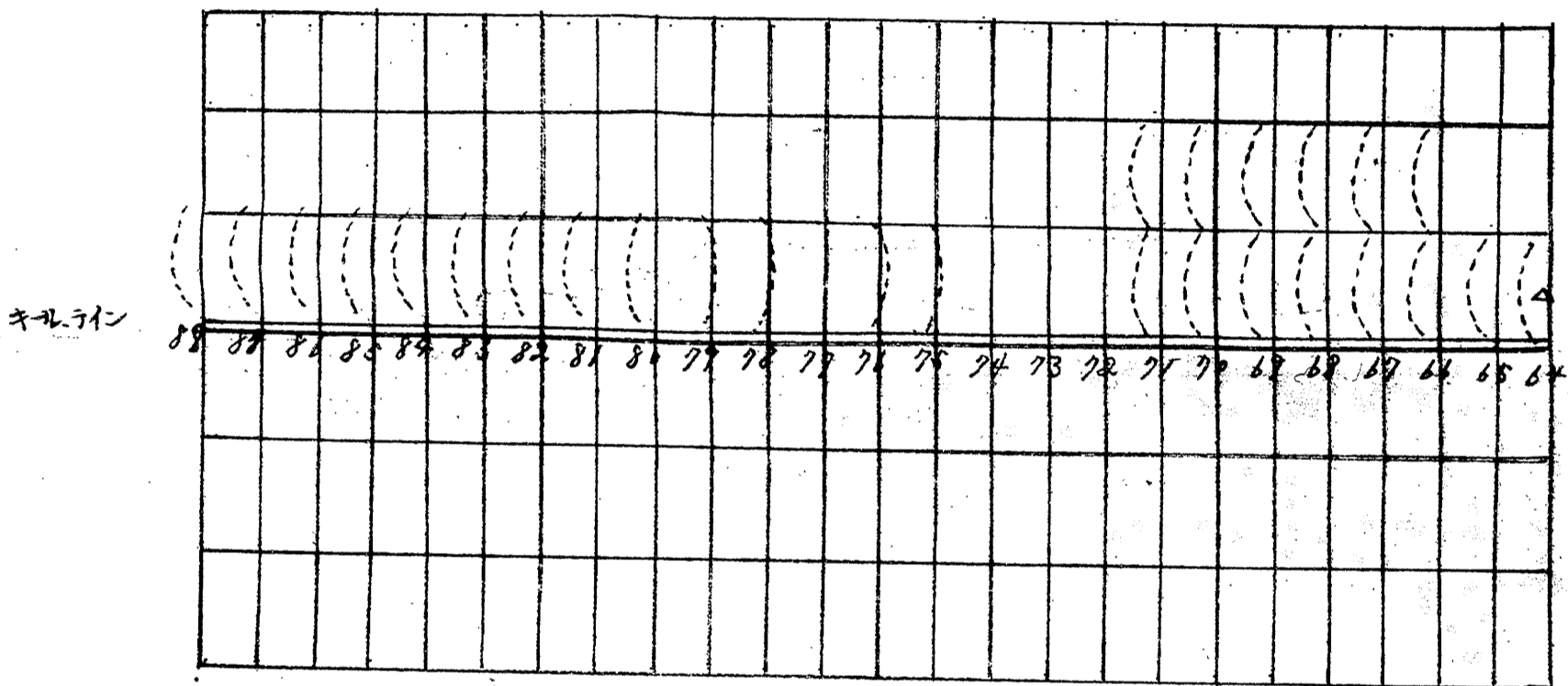


別圖第二

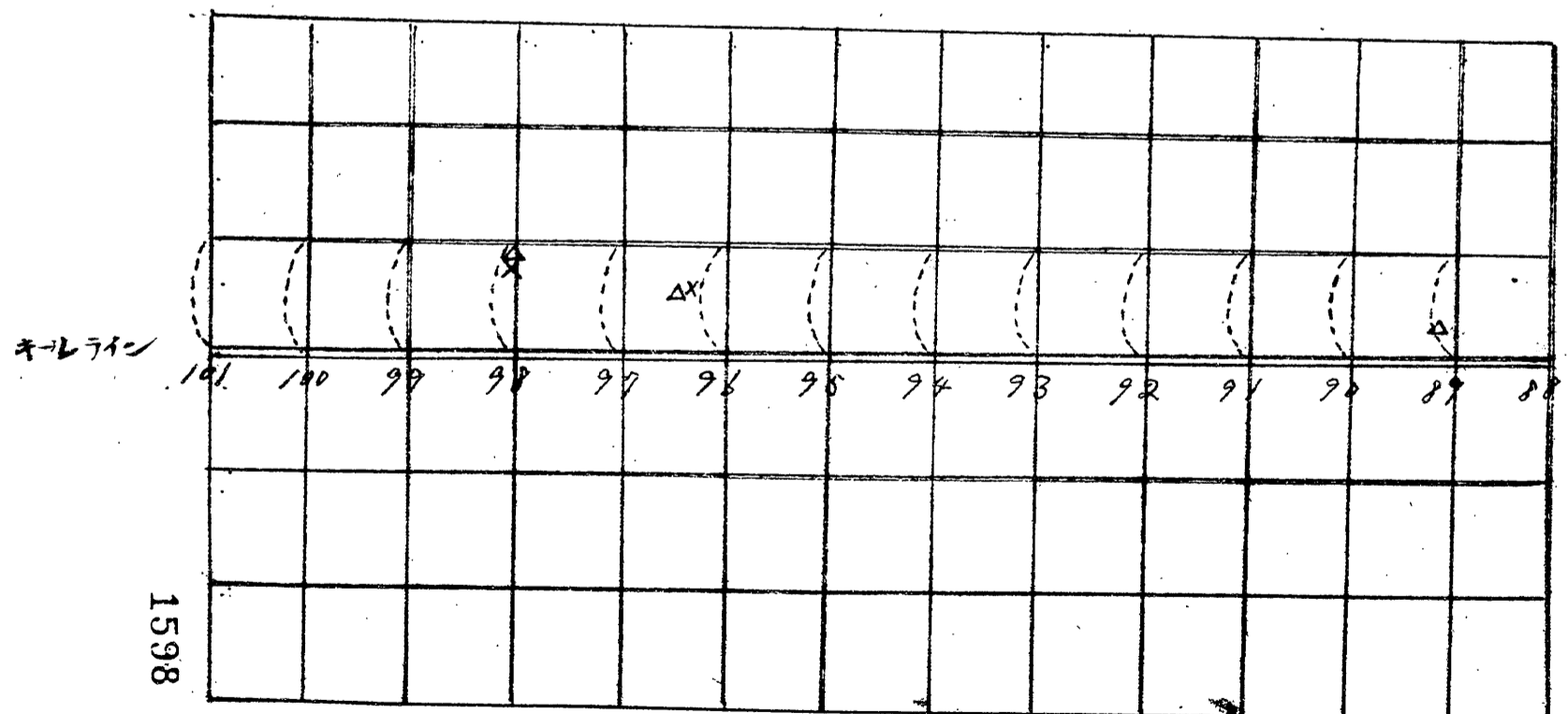
第一罐室船底



第二罐室船底



第三罐室船底



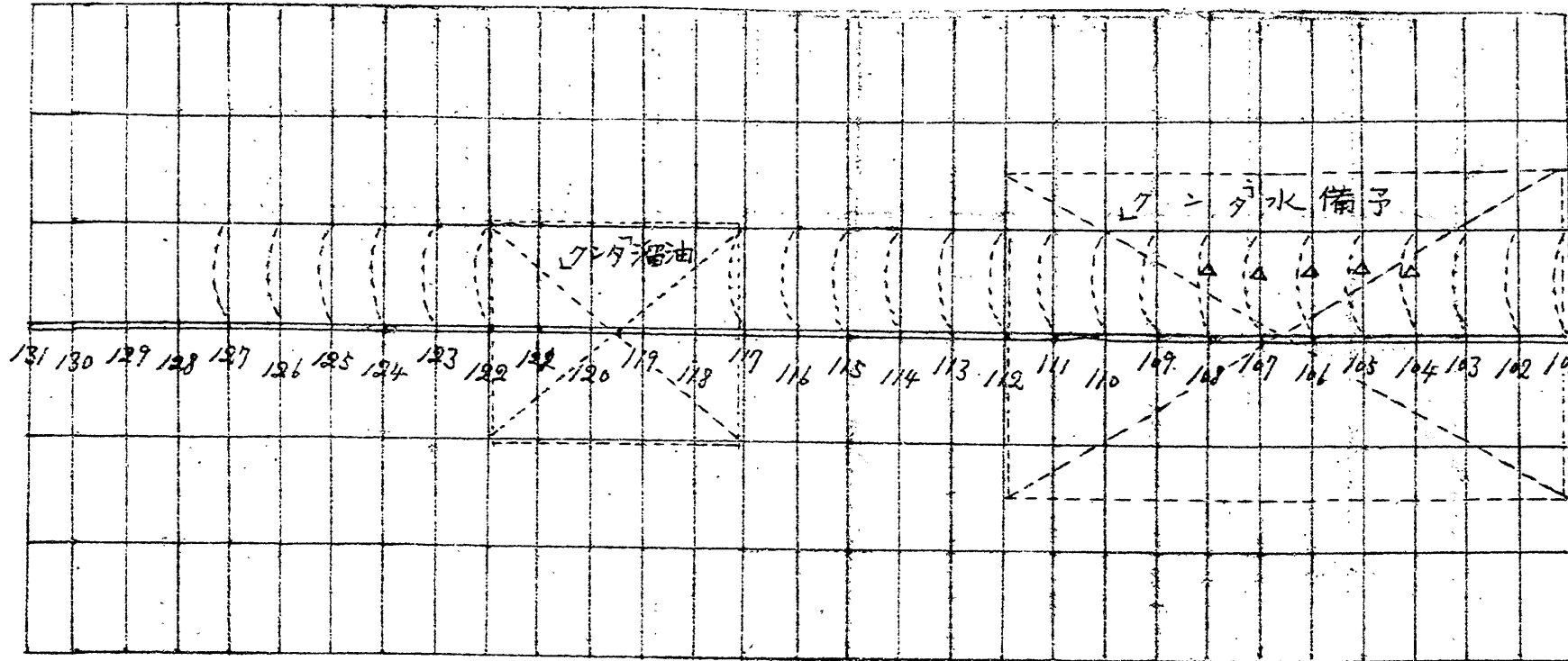
1598

- ( ) 船底の湾曲を示す
- △ 銲接手開き箇所を示す
- X 海水少許浸入箇所を示す
- 数字 船底の番號を示す



機械室艦底

別圖第三



△ <sup>クマノ</sup> 鉄接合部ケルモノヲホス  
 数字 <sup>クマノ</sup> 番号ヲホス

1599